

- ・(在外勤務) ソ連、イラン、英国、韓国(文化広報院長)、ソ連/ロシア(公使)、米国(ホノルル総領事)、駐シリア大使、駐ウクライナ/モルドバ大使
- ・(国内) 外務省 国際報道課長、国連政策課長、官房審議官、中近東アフリカ局長、関西担当特命全権大使 2006年退官。同志社大学客員教授、国立京都国際会館館長、KDDI 社外監査役等歴任。
- ・現在、ウクライナハウス・ジャパン共同代表、茶道裏千家淡交会顧問、日本国連協会評議員、京都日韓親善協会会長ほか。

国際奉仕委員会 委員長 永井 博より
プロフィールご紹介



【はじめに】

ロシア軍がウクライナを侵略し2年が経過。この戦争の行方と日本外交について見解を述べる。



【要旨】

1. ウクライナとはどんな国か？

国土の面積は日本の 1.6 倍あり、ほとんどが平地で長時間ドライブしても山が見えない。世界有数の穀倉地が広がり、東部には豊富な石炭と鉄鉱石の産地があり大工業地帯がある。地政学的にもロシアと中部ヨーロッパを結ぶ要衝の地にある。人口は約 4200 万で、独立後多数のウクライナ人が国外に移住。ソ連時代、ウクライナでは大陸間弾道ミサイルや巨大輸送機の製造等、軍需品が数多く製造されたが、現在ではハイテク産業の興隆が著しい。8割がウクライナ語、2割がロシア語を日常語とする。

2. ロシアの本質、ウクライナの本質

ロシアはバルト海から太平洋まで広大な領土を持つ。歴史的にモンゴルの支配とその影響でロシアは領土の征服と収奪で発展。他方、ウクライナは豊かな黒土地帯に自治権を獲得したコサック集団の根強い伝統がある。農民は土地を守るためには命を懸ける。

3. プーチンの戦争、ゼレンスキーの戦争

偉大なロシアの復興を狙うプーチンにとり、ウクライナを支配下に置くことは必要不可欠。18世紀のピョートル大帝やエカテリーナ女帝の偉業が念頭にある。他方、ウクライナは現在、ロシアからの独立戦争を戦っており、反ロシア感情はウクライナ人の遺伝子に深く刻まれている。

ロシア国旗 (ロシア帝国国旗)



4. 戦争の見通しと停戦の条件

ウクライナはロシア軍の完全撤退と領土の回復を条件とし、ロシアはクリミア及び南部・東部諸州の併合承認、ウクライナの NATO 非加盟、武装解除などを要求すると推測。両者の隔たりは大きく戦闘は今後も続くも、米国の軍事支援中断で戦況はウクライナにとって厳しくなりつつある。他方、欧州主要国はウクライナと安保協定を結び、NATO に新規加盟のスウェーデンが支援に加わる等、新たな動きも見える。ウクライナはドローンの大量生産など軍需品製造で、ロシアの攻勢を塞ぎとめる努力を傾注。兵員の確保が鍵となろう。



5. 日本は抑止力向上と対話を重視すべき

国連憲章に違反して侵略行為を続けているロシアに制裁を科し、ウクライナ政府を支援するのは当然。ロシアが成功すれば、中国や北朝鮮に誤ったシグナルを与えることになる。他方で、将来、日本がロシア、中国、北朝鮮のターゲットになる恐れなしとせず、日米安保に基づき抑止力を高めると同時に、中国、北朝鮮との積極的な対話を通じて緊張緩和に努める必要がある。



2月20日(火)にパレスホテル大宮で開催された第3・4Gの Intercity Meeting での記念講演の画像が届きましたので掲載いたします。

「野球から学んだ奉仕の心」清原 和博様

